

病因考全

病因考目次

中風	初	消渴	八
中暑	日	虛損火動	九
中濕	日	勞瘵	十
瘡痢	日	欬嗽	十一
傷食	日	喘急	十二
泄瀉	日	吞酸	十三
嘔吐噦	日	眩暈	十四
噎膈反胃	日	頭痛	十五
鼓脹附喪脹	日	心痛	十六
水腫	日	腹痛	十七
黃疸	日	腰痛	十八



歷節風	中氣編枯	脚氣	疝	瘰	痔	瘰	癩癩狂	怔忡驚悸	健忘	不寐
附痛風										
三十	三十	七十	七十	六十	六十	六十	六十	六十	六十	六十
自汗盜汗	諸失血	遺精	痔漏	大小便閉	眼目	耳病	鼻病	口舌	牙齦	
	附遺溺白濁									
九二	九二	九四	九四	九六	九八	九八	九八	九八	九八	九八

咽喉腫	癰瘰	牙	癰疽	疥癬	瘰瘡	癰瘡	癰瘡	癰瘡	癰瘡	癰瘡
附喉痺			附							
三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十
小兒驚癇	癰瘡	痘瘡	妊娠	產前產後	經閉	崩漏	帶下	乳岩		
三十七	三十八	三十八	四十一	四十三	四十七	四十七	四十八	四十八	四十八	四十八

病因考ハ世上ノ醫者ハ先ツ藥ヲ主トシテ病因
ニ疎故病因ノ大際ヲ記^{并治方ヲ附}是良山先生ノ初年ノトキ医
ヲ知ント欲スル人ノタメニ説タルヲ門人トモ書留メ且ツ
醫書ノ説ナドヲモ取合セテ集録センモノナリ門人ノ中モ
未熟ノ人アリ吾門ニ取難キ説モアリ此書異本モ多
勿論傳写人ノナハ誤モ有ヘシ熟讀シテ取舍スヘシ

病因考

古兩因外因不内外因ノ三ツ有リト云説有三因方ド云
書ニ出タリ

中風傷寒附中寒

中風傷寒者傷寒論其變ヲ尽セリ師ノ門常ニ
講習スル所也故ニ今其ノ目ヲアクルノミ

中寒ハ此冬月嚴寒ノ氣ニアタルモノ也方書ニ云フト直ニ
藏ヘアタルト論スヘカラス又陰經ヘノミアタルト云ヘアラス何
経ヘモアタルナリ世ニ云フヘ病ナリ

治方

大溫藥可也

四逆參附之類

中暑

此暑ニアタルナリ中寒ノコトニ後世夏日暑ノ防トテ
香薷散ナドヲ服スルハ不可ナリ暑ニアタラハ暑邪ヲ防モ
ノナハ服メモ可ヘ又暑ヲサクルトテ水邊或ハ風ニアタリテ

フスヘカラス又清冷ノタメニ冷物ヲ過食スヘカラス暑ノ
甚シキハ午時ヨリ未ニテノ間ナリ此時ヲ避ヘシ治方
白虎之類 遽ニ外カラヒヤスハ甚不可ナリ霍乱ト云
モ此暑邪ニ感メ食傷ヲ兼ヌ揮霍撩乱スルナリ病名
トスヘカラス食滯ニタタ有リナリ

中湿

卑湿經絡ニ伏藏ノ不去故ニ病ヲ發ス凡寒トナカウテ當
テモ當分知リス久シクテ發ス當分ノ湿ハ散シヤスシ天民
ノ内外ヲ分ルハ不可ナリ湿ハ皆外感ナリ 治方
五苓散コレ一身内外ノ氣ヲ疏通スル故ニ小便ヨリ湿

疏通スルナリ

痼痢

此其因同シク寒湿ナリ始寒湿經絡アタリ居テサテ

風カ入り来ルヨリ瘧トナル患者邪表ヘ發ス凡寒湿
三氣シカラシムモノハ痢者寒湿腸胃ニアタルハ夏
伏陰在內ヲ陽氣表ヘ浮此時人コトニ冷物ヲ好テ食ス
故裏愈寒冷ニナル此時ニ夏日湿人ニアタリヤスク又ヨク
腸胃ニ客タリ瘧者凡ヲ兼スル故其状寒熱性来頭痛
等ノ表証ヲナス痢ハ唯寒湿ノミ故表ヘ不發ニテ裏ヲ
傷ルナリ其故ハ裏面ノ腸胃ニ寒湿アタリテ其所ノ血
此ガタメニ凝結ス故ニ裏面鬱塞ス又ヨク惡物ナトラ食
ヘハソノ所愈壅塞シテ下焦ノ火熾ニナリテ微也鬱塞
所ヲ傷ル故其裏面爛テクナリ譬ハ燒傷シテ上層
爛レタルト同シ始只黄汁出即ナメニ是氣分ニ属ス津
液化メナメニナリ血分ヘ入ルト血下ル其毒氣タモチ
唐テ後ハ其血ヲ膿トナス此毒氣ノ深キモノハ毒氣深

血ノ膿ヲナス間ナク只血ノミ下ルモアリ血バカリ下ルニ
ハ輕キ症モアリ見分リヘシサテ鬱塞スル所ノ火熾ニ上ヘ
升ラントシ氣ハ下流セントシ相戰テ急迫ニ裏急後重ヲナス
ナリ是皆実病ノ故ニ虚人病コトナシ只強人ヨリ病虚人譬
寒濕ヲ受トイヘ氏ソノマ、溷下メ裏ニタモチテアルフナシ強人
者此邪ヲ受ナカラニツトタモチ居ナリ故ニ此ヲウレウ痢
ノ復痛患キモ毒氣熾故ナリ今ニ痢ニテ下ル血トモ藏ヘヤハ
ルフナラハ命甚危カラシ腸胃ノ凝血ナル故命ニ害ナシ白ヲ寒
トシ赤ヲ熱トシ又ハ腸胃ノ濕熱トスル類歟後世ノ誤ニ瘧毎
日發シ或ハ間日或ハ三日或五日ニ至ルモノ其然トコトナリカタシ素
問瘧論其說詳ナリトイヘトモ難解此フハカイテモ可ナリ
古ハ大病トシタリ故字從瘧シカルニ今ノ瘧ハ少シク呪法ナト
ニテ治スルモノ多ケルハ大病トハセラレズ瘧ハ外ニテ其邪又ケ

易々痢ハ裏面爛レタレ故ムツカシキナリサテ瘧痢ノ半年
一年モ不愈ハ毒氣ノ凝ルニアラスクセツキタルナリ又經絡腸
胃ニ瘧痢ノクセツキテ毎年ヲコル者アリ治方痢ノ初發
ニハトカク疏通解毒ノ劑ヲ急ニ用ルカヨキナリ氣或ハ氣劑
加大黃芍藥木香ノ類輕重ニ從ヒ可撰用茯苓白朮
ナトハ不可用然ハ氣劑ノ内ノ茯苓ハ用テソルシカラス
サレハ急ニ疏通セント思ハハ茯苓不可ハトカク痢ニテ
死スルハ初發誤ニ故ニ腹痛甚ハ毒氣甚シケルナリ小便
氣ヲ可與初發熱強者黃連解毒湯或ハ葛根黃
芩黃連湯用ヘキナリ虚スルモノハ可溫腰眼天
樞十一十四ニ灸スヘシ歴日衰虚セハ獨參湯ヲ見合用ヘ
シ初發ニテモ不食或勞倦セハ獨參湯ヲ見合用ヘシ凡

義氣ヲ用ユルハ初二三日ノ内熱毒甚時ニ十日モ過テハ
義氣ハ用ヒシキニ理中ヲ用ユルモアセキニ氣劑木香
芍藥ヲクミ用ユルカヨキニ又歴日愈ワタリ或再發スルナ
トハ氣劑或理中加木香肉豆蔻或阿膠ナト用
可ナリ嘔口痢此毒氣甚シキモノニ刺毒腸ノミヲ傷
リテヲレハ此ヲナサス上胃ヘ毒氣薰蒸スルト此ヲナス
故ニ速ニ義氣ノ類ヲ用テ其毒ヲ解スニ後ニナリテ
熱毒内ヲ入腹ヨクナリテガラハ独矢ニヲ用ルナリ休
息痢是ハ多積氣ニ属ス腹脹スルモノ多シ是ニ氣劑
或熊膽可兼用痢ノ久キニ建中湯不可也脾氣衰
故ニ理中湯宜シサテ鼻息甚キ理ハ死ス素向ノ腸癖ハ
痢ニ似テ異リ其畜積ハ同シケレハ痢ノコトク疫ニアタルト

云所チカフコレ疫ニモヨラスノ自下ニ故裏急後重キナシ
此熱毒ナキ故ニ腸胃ニ畜積スル物下ルヲ以腸癖ノ名有リ

傷食

此証多ハ思慮勞役ノ上中焦不和積氣壅塞スル故飲
食克化スレテヲ不得メナス故ニ思ヒヨラサル物ニテモコ
レアルナリ腹痛吐瀉甚則四支厥冷人事ヲ不知ニ至
又食毒不化腹中ニ停滯シテ吐瀉ナク四支厥冷スルモ有
サテ吐瀉シテ後トイヘハ脈ユフタクト來シ食毒ノミタ中焦
ニ滯有ルト知レシ毒氣ヲ吐瀉シ尽スト脈スミ熱出ルモノニ
治方

熊膽

黑丸子

吐瀉ノ後

四肢厥冷四逆參附ノ類

木香

藿香

益知急ニフリ出シ或一味

撰用

泄瀉

此水穀分利セサハナリ故煎湯ハ浮ラニス気味アリ故散
劑ヲ用カヨキナリ浮ニ疝氣下リ多シ疝積ニテ下焦塞ル
故浮スルニ此ハ久シク浮シテモアミリ氣ツカイハナキナ
リサテ浮ニ寒浮多熱浮ハ希シ夏月ノ浮ナトハ多ハ寒浮ニ
腸胃ノ陽氣不順ニシテ食物ヲ消化スルナリカ父キ故浮スル
水腫ノ浮モトモニ寒浮ニ今滯食ナトニテ邪熱熾ニテ吐浮スル
アリ又吐ナクノ浮ノニ有ルハ熱浮ニ五更浮ハ脾胃浮ニテ
深ニ心ヲツクヘラス虚損ノ症ニ有ルナリ陽氣乏シキ故ニ
阴分ニハ浮下セス陽分ニ至リ下焦陽ニツシ動ノ五更ニ浮ス
ルナリ又疝積浮ニモ脾胃浮ニ似タルモアリ

治方

治中散類 灸十一二三四脾胃虚ノ久浮

ニハ水鳥ハアミ、鵲告天子ノ類ヨロシ

嘔吐噦

声有テハクヲ嘔ト云声ナクハクヲ吐ト云虫エエ嘔吐ヲナス
モノ有リ食氣ヲ聞テ惡ナト多ハ食滯ニ又虫ニテモ然リ
常好テ食モノモ俄ニ食コトラ得サルナリ皆虫ニ其餘ノ
嘔吐積氣ニ又傷寒ノ嘔吐有リスヘテ中焦ノ病ニ或痰
氣胸膈ニ滯テ此ヲナスモアリ中焦ノ鬱結スルヨリ食胸
膈ニ滯ルニ 治方 氣劑 生薑 夏半夏
生薑 嘔家之聖藥也虫ニテ吐スルニハ半夏生薑ト云
氏効ナシカタニ捨置テ少シ靜マリテ藥ヲ用ヘシ噦ハ積氣
ニ胃口ノ氣不順中焦鬱結スルハ有ルナリ胃口有塞ト

古来云ハ未詳コト

噎膈反胃

此三證同病之其食ヲ拒ム知ニ因テ三名有之噎ハ食
物咽マテ下リテ下ラスナリ噎ハ胸膈マテ下レツレヨリ
下ヘハナリガタキニ反胃ハ胃口マテ至レトモ胃府ヘ
ラセリカタク或其マ、吐シスハ朝ニ食シタヘニ吐スルモ有
ニ三症トモ脾胃管ノ潤ナクコハリスホム故ニ凡老人此ノ
病ハ天然ニ病ニ壯年ノ人又半百ノ人ナトノ此ヲ病ハ積氣
有テ胃口ヲオスエニ食ヲウケヌ潤ヌケ此病ナト有ニ
故ニ老人ニ反胃ナク唯噎膈ニ壯年ハ多ハ反胃ニサレ凡一際ニ
見ルヘラス夫人年老ハ形衰皮膚枯燥ス是津液枯尽シ
身中ノ潤ナクナリシ故ニカリ食道胃管モソノ如ニ潤カワキ

サラクトコハリスホリヲノツカラ食入カタクツミルナリ此噎膈
ニ反胃ハ積氣衝アクル故然リ是モ胃ノ潤ナクシテシカルモ有
先ツ積氣ニ噎膈モ又積氣有テシカラシムルニ凡老人胃管スホ
ム故ニ壯年ヨリハ食忌減ス譬ハ草袋ノ水ニ漬リ或ハ大ニ
焦レテコハルコトシ故ニ此ニ至ラハル初ニ滋補スヘシ元胃ノ
氣衰ニ故ニ此ヲ以老人ノ是ヲ病ハ皆不治ニ壯年ノ者病ハ
潤生ニアスキユヘニ保養ヲヨクセハ治スル吉又アリ

治方

灸治

噎膈ハ三九七

反胃ハ

九十至十六俞 此症ナク、某劑ノ及トコロニアラス
心氣ノ保養ヲオトシ灸治餌食ヲ專ニシ酒ヲ用テ
氣血ヲ順シ津液生スル様ニスヘキニ往歲上加茂社家

某七十餘ニテ喘ヲ患フシカニニ保養ヲヨクシ平愈ヲ
得九十八歳ニテ終リスコトハ世更ラステカマウス心ヲ
小兒ノ如クモチサテ灸フシタトキ自然火トガメラコヅク
有モマハリ灸シ餌食ヲ常ニタマサヌ酒ヲ少ク用イ如此
ノイットナク快服シ二十年ノ後天壽ヲ終テタリ喘
ノ治方此ニスキルナシ喉痺ノタビアル者此症ヲ病
マト有リイデントナハ氣屈スハ喉痺メ血ヘル故ニ潤ヌ
ケル者ナハナリサテ喘症鼓脹其因積氣ハ同シテ也
暖カサノマシニ患シクハリ出シクルハ鼓トナリヘリテク
ハハ喘ニナリニ症氏皆潤ナクナル故ナリ一種虫ヨ
リ噎喘サスル有リ虫生テ潤クハハ故一身ノ潤
ナクナリテ此ヲ病ナリ

・鼓脹附患脹

手足ハ瘦腹脹ノ狀鼓ノ中空虛ナルカ如シ故此名有コレ
積氣ツヨク中焦ノメクリヲ阻隔シ元陽ノ養ウスクナリテ
脹ルコレ氣ノ脹ル腹中ノ氣妄行スルハ最治シカタシ此
症煩渴引飲スル者ハ此中焦閉塞シテ氣メクリラス故胸
膈乾燥メ然リ其脉沈或平易ナルモアリ微細救死不
遠 患脹此少異其因多血塊ナリコレハ婦人ニノミ有
モノナリ患ハトクリナリ外堅メ内空虚之此ニ比メ名
ツクルナリ婦人不妊娠者此ヲ患フルヲ多シ此ハ鼓ノ如ク
手足ハヤセルモノ

此所不録治方
熊膽

一本治方
灸穴自九至十六

北門ハ後藤社中ハ藤ヲ
一本ハ北門所傳之云
本ヲサス

水腫

此一身腫之コレモ元積氣ヨリ生ス脾胃ノ氣積氣ヨツ
テ不順ニナリ分利アシク水道遊溢シテ然リ水穀
不分利シテ腹背四支へ水氣アフレ此ニヨツテ津液ト
モニ水氣ニ化セラレ同シク水氣トナル故其腫勢甚モノ
其腫ハ水ナリ鼓脹ト別ナリ此亦脉沈之微細数死不
遠此症陰莖陰門ノ腫ヲ見テ十分ノ腫ヲ知ヘシ腹青
筋アラハルハ水氣ニテ底ニ有ル筋ヲオシイタスナリ鼓
モ亦シカリサテ腫ヲ指ミテ按シ指ヲアクルト陷トコ昂
起ルハヨシ起サルハアシ、此水氣甚シクノ氣カイナキ故ニ
鼓ト同シク煩渴引飲ス者ハ中焦閉塞ノ胸膈乾燥ス
ハシ

治方

茯苓 大 沈香

附子

各 大 灯 44 束

鯉魚

温泉

或硫黄湯

熊膽

灸ハ

水氣阻ツルニヨリナシテモ不徹故効ナシ温泉ニテハ經ヲ
温メ陽氣ヲメクラス故汗出ルニ從ヒ水氣ヌケルニ温泉
用カタキニハ硫黄湯又ハ々々湯ニ浴スルモヨシ浴湯ノ後ニ
衣類或綿ナトニテヨクヲハヒ汗出ルヤウニスルカヨシ浮腫ウ
ヨクタニク浴湯ニテ汗出皮膚水氣ノヌケルニシタカイ元氣
ヲ固ムルヤウニスヘシ如此スハイトトナク陽氣トナリテ水氣
出ルニ長病面部ノ腫ニハカニヒクハ陽氣下陷スルニ心ヲ
用イ推察スヘシ

黃疸

其因水腫ニ同シ水腫ヲ病サハ黃疸癉黃セサハ水腫
互ニ病ニ此モ積氣ノ有ル故ニ内ノメクリアシクナリサテ寒

湿アタリ其閉塞ノ処ニテノ鬱スルニヨリ熱ス故ニ其寒湿
ヲムシテ黄ヲ發ス譬ヘハ麴室ノ外冷内熱ヲ以テ麴ヲ
ムスカ如シ外寒内塞リテ熱スルヨリシテ發黄スル此
証内ヲ蒸コト甚シテ脾胃此カタメニソコ子テヨリ穀
ヲ消ノモ養ノタメニナラス故大病後或老人ノ疸皆
難治也サテ腫クルト黄自ラムモノ故ニ此ハ輕キモノ
トス女勞疸ハ房室過度メナル脾腎泻ノ後多黄ヲ發ス
ルアリ^茶色ナルハムツカシハツキリト黄ナルハクニシカラヌ
治方 茵陳五苓散 或氣劑加藿香大腹皮之類
餌食 鰻鱺 鱖鯉 鯽 俗ニ鰻ヲ用
消渴 中焦渴ニカワキノ病ト云下焦渴ヲ消渴氣ト云
胃火ノ熾ナルユヘニシカラシム方書上中下ノ三焦ニワカツ

然一症具ハ三症通ノ有ニ中焦渴スハ上焦モカハクナリ
多ハ上中焦三渴ナリ胃火ニテ穀氣ヲ消スル故ニ飲食ス
ルヲ尋常ナラス食物肌膚トナラスシテゼシクニ瘦ガシ
ルニサテ又小便頻數凝澁ノキミアリ其小便白濁トカ
ワリ久シテ滯ヲ見ハ凝テ如膏ナル津液熱ニ侵レ泄下
スレハ甚シテハ小便通スルヲ飲モノ十倍モアルト云如此ナ
ル死ニ近キ俗ニ小便濁澁スラ消渴ト云コハ白濁或淋
症ニ有ル^テ 治方 白朮加麥門冬黃芩枳椇或
天花粉 葛根之類 葛粉 餅モヨシ美味ハ多不可用
虛損火動
虛損者火動ニ虛損スル故虛火妄動スル中古以來
火動ヲ論スルハ只腎中ノ陰水虛ニ相火亢症ノミヲ云是

一際ナルヲナリ兎角積氣腹内ニ鬱結シ營衛ノ運行アリ
クナリ内ノ潤乾クト火カナルナリ諸病後多火動トナルコレ
四十後ノ人多病凡一藏ノ火亢ハ諸藏ノ火皆亢ル火動ハ一
身中ノ火悉亢ルニ飲食不節シテ傷ルハ脾ノ藏ノ火亢ニ
房室過度真阴カルト腎ノ藏ノ火亢ル思慮ヲコラシ
鬱悶甚シシハ肝ノ氣屈折ノ肝ノ藏ノ火亢ル凡寒ノ
邪ニヨツテ欬止サハ肺葉ヲアヲチテ肺ノ藏ノ火亢ル心
火ノ亢ハ訖アリ暫コレヲオク諸病後諸藏勞スニヨリ
悉火動ニナルト云サテ此症ニ灸熱惡寒スルモ有病候
勞ニ似タリヨク分ツヘシ此モ皆積氣故本原阳气ノ
メクリアレクナリテタル故ニ諸藏トモ勞レヤスシ又其
ヲシテ勞セシムルニヨリ此症世間ニ多シ欬スルモ有リ欬

セサレモ有只勞ト異ルトコロハ脉ニ有シ此症ノ脉ユラクト
シテ根ナシ亦根有モ有リ阳气之シク熱有トキノ脉数ニ
最難治ニ

勞瘵 瘵者奈ニ此病必死メ奈ラレバ後手

此腹中ニ虫有リ水穀精微ノ氣ヲハミ津液ヘメクラシカク
ク鬱火自生シ骨蒸ヲナスニ此虫腸胃ノ間リシ生スルハ
アラス氣血凝血メナルトコロノ虫ニ此虛令ヨリ生スルトノミ
云ヘラス実人ニテモ虫ヲ生スル此病トナル三ナテノ内
ニ多アリ虚ノ心腎ヲ勞傷メラコルソレナラハ老テハイヨ
ク此ヲ病ヘキニ不然ハ唯虫ヨリ注スルト云フヲ可知
又傳尸病有リ此モトヨリ虫アリテナスモノニ凡病テ
死スルヤモ病テ死尸ヲ傳フノ義又十四五ヨリ内

勞ラ病アリ然レ其真元ノ水ヘラス故イヘン有此ラ
痺勞ト云此ラハ小兒ノ時痺ノ由アレ其痺ヲナサスノ内ニ
伏藏ノ漸此ラ致ス之勞歟ト云ハ和語今時ノ人三
十ヨリ内ニ病ヲ勞歟ト云歟ナケハ勞症ト云古ハ虛勞ト
云リ歟當分凡邪ニヨツテナスニアラス其始ハ凡寒ヨリ
ナスモマタ外ノヲニテナルモ肺氣勞ノ歟スル故此名アリ
勞ニアルトコロノ蒸熱ハ四十後ノ火動ト云ハナシ蒸ハム
スノ義ノ陽氣盛ナルモ表氣メクラハ故陽氣舒ル
アタワス鬱結ノ熱内ニムセテ骨蒸スル證ハ大寒ニ
井水ユゲタツ如シ然ニヨツテ蒸ノ字此症ノ眼目ニ此ムシタツ
ルトコロノモノ虛火ナリ身ノ養ニナル陰氣ニアラス壯火食
氣ト云ルモノ此類ノ房交ヲ過シ真陰枯テ然者勿論ナリ

其脈微細數ニ凡此症ヲ病ト云モ皆本原精氣内ニア
ル故ニ諸府諸藏ノグワイアレケレハナリ年齡ヲ以テ火
動勞証ヲ分ツモ大槩ニ三十ヨリ内ニテモ火動ヲ病有
四十後勞証ヲ病モノ有或ハマ有フニ只脈ノ微細數ト浮數
ナルトテ名ヲ分ツ今時ノ勞歟ト云ハ古ノ虫注ニアラス
多ハ傷寒癰痢ノ後或ハカリフメノ凡寒ノ時々感シ歟
嗽ヲ登シ内外乾燥シ終ニ此症ヲナス病因異ナルヤウナレ其
骨蒸スルトコロハ同シキ故ニ後ニ虫ヲモ生シ自ラ前ニ論セシ
症ニ変スル治方火動勞症ニ灸救万壯熊膽餌
食火動勞症ニ平常ノ治ニテハ回生ヲナシカテ大陽ノ火氣
ヲ以テ真陽ヲタスルナリニ症當世ノ通患ニ
歟嗽

凡寒ノ邪ニテ欬スルモノハ邪氣肺葉ヲ上ヨリ閉塞サ
レテ下ヨリ氣ガアツツ勢ニテ欬スルナリ又肺葉ノ潤
乾燥ノモナス邪氣ニテセシムルモ熱ニテ乾シムルモ同シ又積氣
上衝ノ上焦ヲ閉塞シ欬スルアリ肺痿モ此ト同シ潤燥テナス
欬嗽ノ久シキ皆此ノ又傷寒ニヨリナルモアリタシカニ肺痿
ト云即今ノ勞欬ナリアイタニ欬ニツシテ血出カ有久キ欬
アラサハクルシカラス久欬ニテモ脈スミサハ不苦

治方 專肉物ヲ食シ潤フ生スル様ニスヘシ

喘急

其因者屬奔豚下ヨリ積氣上テ心肺ヲ侵スナリ其發ハ
外邪或ハ食滯ニテ呼吸ノ道ヲ妨テナスコト多シ喘ハ屬腎
唯吸スルノミ欬者屬肺唯為呼ノミ哮喘モ同シ

治方

灸自九至十四

茯苓 半夏

細辛

五味子

枳實 厚朴

杏仁

木香

桔梗

知母 貝母

沉香

乾薑

人參

生薑

撰用此症煎湯

ヲ用ルニ是ハカイアルヘシ病勢盛ナル時ニ降氣セントスハ
却テサカライデアシキヲアリコレハ見アワセテラケハシツ
マルヲアルモノ

吞酸

附嘈雜暖氣惡心

此胃中ノ食スエル故ニ酸ヲ吐吞ス其因ハ積氣鬱結シ
内熱外寒スル故ニ消化スルナリカタク食物スエルノ聲ハ
麴豆ノ麴ヲナスカ如シ外ハ土ヲ以寒シサセ内ハ火ヲ以蒸
麴ナルカ如クヨク消化スル酸味ハナシ東垣ハ寒ト云天民ハ

熱ト云トモニ言タラヌナリ暖氣意氣同飽食ノ息トアリ
ヲクヒナリコレハ飲食ノムグリキハニアルナリ嘈雜ハ胸ノ
カクナリ或ヤケルトモ云長病脾胃虛ナトノ症コレアルハ
甚アリシキナリ吃逆ト云トモ同惡心胸ノワルキナリ

治方

熊膽

奇應丸

眩暈

此氣上部ニ塞ル故ナリ上実下虚ト云ヘ氏畢、竟氣上盛ニ
シテ血モソレニツレテ盛ニナリ氣虚モ血虚モ有リ痰ニテ
モ氣カ塞テ眩ヲナスアリ虚トヲシツケテ云ヘカラス病ハ
眩暈ノ至極ニ内經諸凡掉眩屬肝ト有リ此肝ノ病ニ凡此類ノ
病肝ノアツアルトゴナリ肝ハ發生ノ氣ヲ主ル故ニ少ク激スレ
ハ甚動ス積氣肝ニアタレハ其マ、動メ此類ヲナス其激ヒシ

ムルモノハ積氣ニ此症タ、中焦ノ氣ヲスカスニカヨシ

治方

灸膏肓七九三厘

熊膽

頭痛

此其症ヨリテアリ或食傷或凡寒濕ニヨツテアリ其時
ハソノ本ヲ治シテカマワス故ニ頭痛ノタメテ加減スルヲ配劑ニナ
シ持病ノ以痛多是積氣ナリ後世氣血ヲワツハアヒキ
ナリ積氣ト云ヒ經ニクセツク故ニタト痛ナリ又邪氣ニ塞
テナスアリ瘡毒逆上メナスアリ偏枯双痛モトヨリ積氣
ナリ後世氣血ヲワツハアヒキナリ左積氣アルハ左塞
テ左痛右モ此ニ同シ積氣逆上メ經ヲ塞ハナリ産後頭
痛此額ハ風アタリテソコニクセツク故凡カアタルト頭痛
血道頭痛ハ真ハ痛ハ腦痛ハ腦凡トモ云腦ハ諸阳ノ會
ナ故ニ陽氣ヲ凝シ外ヘ散セス故ニ死スルナリ

心痛

其因積氣鳩尾又兩乳間へサシテシヤリ胃脘ノ痛モシカ
リ疝積上衝ノ者多シ此皆胸痛真心痛ハ膈中ノ底ニテ
タツテ痛ナルヘシ又吐血スルモノ有是ハ凝血心ニアタツテ痛
吐血スル故死スル者ナハ真心痛ト云ハレマジキカ

治方 灸 熊膽 桂附乾薑ハ此症ハタマスケ用

ラレス

腹痛

寒ニヨリテ腹痛スルアリ食滯ニヨルアリ虫痛アリ
冷腹痛ハ温テ可シ虫痛ハ苦味ヲ以スカスヘシ若苦
ヲアタヘテヤマサルニハ反テ耳ヲ用シ耳以緩急ノ意ニ

腰痛

附脇痛背痛腰痛
臂痛

素中可取

腰痛多寒湿腰間ノ氣ヲ凝シシヨリクセツキテ
時々痛ヲナスハ疝積脚氣ニヨツテナスアリ腰ハ腎之
府トアル故ニ腰痛ヲ為腎虛此一榮ノ説ハ老人ノ腰
痛ハ陰氣ノ不足ニ

治方

桂附建中湯

灸章門

腰眼

丹麥一婦人三年腰痛ヲ患ヘアリ乾薑ヲ寒中用
テ効ヲ得タリ此症ハカク温カヨシ温泉モ可シ腰ノ痛傷
寒ニアルハ邪氣閉塞スヘナリ其餘ハ積氣ナリ背痛
太陽經ノ氣流行アレクナリテシカリ底ニテ痛ハ多積氣
ニ膀胱經ノ氣鬱スル故ニシカリ

治方ニ症共温泉

或氣劑加減臂痛症治要

決名手氣此脚氣ニ對シ云經絡ノ氣停滯ス故此痛ヲナ

ス此上下ノ節開トナリテヲル故其痛治シカタキナリ
治方 氣劑加薑黃海相皮 灸曲池溫溜 此症
治ヲ施シテ痛止カタキ業カ達シカタケハナリタト痛ツヨク
ナレ熱劑ヲ用キナリ或湯治モ宜シキニ 薑椒ヲ常ニ
食スヘシ又ハ蒸羊ニテ痛処ヨリ汗フトルモヨシトカク溫散
之業可シ

歷節凡 後世痛風ト云

此凡寒濕ノ三氣シカラシム始ニ寒濕經絡ニアタリテ塞ア
ル故ニ凡カアタリヤスキニシカルニ寒濕ハ陰邪ユヘ痛ヲ
走スフハナケレ凡カハル故アチコチ走痛ノ勢アリ此一時
邪ニアタリテ其処ヲソコナイホアタリテラモリモテユク
故此痛ヲナスサテ其長引テイカホト日救ヲ歷ルモ凡ハ

十日ホトモスレハサルモノナリ故ニ凡業ヲ以表發スハアシ
、濕散スルカヨロシキナリ又愈タル後ニモ凡寒ニアタレハ又發
ルハ經絡クセツク故ニ 白虎歷節凡ト云ハ虎ノカムホト痛
ト云 義ニ此症ヲリ瘥ニ変スルヲ多シ鶴膝凡ハ此壞症
ニテ治シカタシカテ痛凡脚氣其因同シ寒濕皮膚ノ
間ニ感入スレハ痛凡トニ肌肉ノ間ニ入ルト脚氣トナル故
痛凡ハ其邪淺ク脚氣ハ邪深シ故ニ其愈モ遅キ
傷寒瘧後此症ヲ患ル者多シ 治方
續命湯 後建中湯 溫泉 餌食 初者

中氣 偏枯

方書ニ云中風師門此ヲ中氣ト云或氣中ト云氣ヘアタル氣ノア
タルト云意ニ其因本續氣ニテ經絡ノメクリアシクナリテ凡

寒濕或滯食諸ノ邪氣ニアタリテナストコロ也於此中
氣ト云フ凡カ手ツタヘハ中風氏云ヘケレ氏サレ氏元來積
氣ヨリ壅塞サレテ氣外ヘ達スルヲウトキ故ニ此ヲ患フ
寒以下ノ諸邪コトクク凡ヨリサワヒタルモノナルユヘク用
弓反張手足拘攣ノ如キ皆凡狀ナル故ニ中風ト名ツク
然氏是古名ニアラス後世ノ説ニモ外無六經之傳變
内無便溺之阻隔ト云ヘリ今所在之中風ハ皆一定ノ
病ニテ積氣ヨリ生シ外變スルト云フナシ後世中風ノ論
ニ素問百病之長シノ論ヲ引ナト章強附會シ老人
ノ老老モスルナトモ皆中風ナリ偏枯セヌノ中氣スルモ
又多素問凡論千金ノ方病源論皆凡ト云ヘリシカル
ニ今ノ中風ト云モノトナカヘリ恐クハ誤リナランカ卒中

此急症ニ多クハ食滯ヨリ發ス食滯ノ時ハ先食毒ヲ
ヲ解スヘシ卒中食滯ト大ニ似タリヨク弁スヘシ此症脈
スハハアシキニ偏枯左右共ニ氣血凝塞スルハモトヨリノ
ヲ其中ニモ積氣ノアル方右ニテモ尤ニテモ偏枯スル
ニ口眼喎斜スルハ氣血ノ流行アシキ方カヨクナカレ行
方ヘ引マケラシカリ或痺ヲナシ或痿ヲナスモコレニ同シ
左喎斜スルハ右病ヲフシリ右喎斜スルハ左病ヲフ知ナリ
サテ此症亦ヨリ生ス此病ノ前兆ニテ脈ノ亢モノ多ク此處
火ノ亢ニアラス寒ニテメタラヌトコロ有故ニ激スルトコロアリテ
然故ニ亢ニ中ニ流ル氣味アリ癱瘓瘕瘕ハ凡壯ニ凡モ添
ナレ氏類中風ト云ヘカラス此凡症ナラハ凡葉ヲ用ユレハ
平愈スヘキヲナレ氏今此症大方一代病トナルニ積

氣故年々経路ノメクリアシクナリ陽氣ノ流行カイナクテ
然リ此モ其發スルところハ多食傷ヨリ生ス古来凡ヨリ生
スルトノミ云此腹中ニ積氣アリテヨリシテ然ルト云ところニ
心ツカストミエタリ此症ニ言古マワリカチルハ心ツカシキ
故ヒキミシラウナリ 治方 温泉 但及城崎御
所ノ湯ニ入ル
浴スルカ 桂枝 蝦蛇酒 蝦蛇ヲ好酒ニテ子リ
ツメ用ユルヲヨシ 建中湯加春附之類
卒中 治方 灸 丹田 氣海 神闕 大刺 參附 或
人參 半夏湯
食滯者 枳實 厚朴 加木香 山查 或小氣加山
查

脚氣

此名緩風古方書所謂凡毒脚氣ノ此足内外ノ踝

骨或膝臑ニ寒湿アツマリテナス其処ニテ名ハカワレヒ
實ハ異ナルヲナシ腫ルモノヲ湿脚氣トシ不腫ヲ乾脚氣トス
トカク骨節ニ凝集スルナリ其内阳經ハナリヤスク阴經ハ
ナリカタキムムカフス子ト膝ナトハナナリカタシ千金方ニ
凡毒脚氣ト云ルハ當病ノ宋元以來云ところノ脚氣當
病ニアラス實ハ此氣ノ此ノ足ニ流タルカ脚氣ナリ又
脚氣腹ニ入テ此トナル皆持病 治方 温泉
續命湯

疝

疝者疝氣積成山之意ナレハ多氣鬱ヨリ生ス此大動
ヲ兼疝多シ房事ヲ過シ精氣減タレ者ニ多生ス故年少
ト云トモ此病有リ疝ニイロクアリ 夜尿 昼止ヲ疝ト云
ト云

此ハムツカシキ一寸白虫トテ 疝ノ虫有白色而甚
長キモノ此カ外へ出ト疝治スル此。阴囊へサシコ
フアリ小兒ノ偏墜ハ水氣之大人ニナリリドウビト云ニ
ナリヤスキモノ之疝ノ便毒処へ聚テ厥疝トモ云フ
アリ方書ニ厥疝ト云多便毒之 治方 灸九
至十四 氣刺 樸入烏頭山查桂枝木香附子吳朱

疝

後世方書疝ヲ瘰癧改ム
未知是否疝ハ至ナリ

傷寒瘰癧其外急病ノ後多ハ此瘰癧ニ変ス剛柔ニ瘰癧有
剛柔ハ後急意ナリ剛瘰癧ハ愈易柔瘰癧ハ愈カタシ傷寒
論ノ首ニコレヲ論ス今ノ瘰癧ハ多柔瘰癧之瘰癧後或金瘡ナト
脱血ノ後角弓反張ノキミアハ剛瘰癧之瘰癧急ノ瘰癧ナ
クエルクトシ身スクムハ柔瘰癧ハ小兒ニテ云ハ急驚

剛瘰癧之類慢驚者柔瘰癧之類皆筋脉為瘰癧之証

治方

温泉

餌食

瘰癧

瘰癧者筋骨氏ニナヘテカナワヌナリ瘰癧ヨリカト思ハ
ハ一際之偏枯モマタ瘰癧ノ類之方書ニ凡寒湿痺傷經絡
久シテ成瘰癧ハモイヘリ是モ元積氣ノ闭塞ニテ營衛ノ
行アレクノ經絡ノ氣不順ナレハコレハ凡寒湿アタリヤスシ
元氣ノ不順ニ凡寒湿經絡ヲヤフリ久シテ筋骨ノヤ
ナイ惡クテ故瘰癧症トナル邪ヲ去コシテハアシハ唯氣
血ヲメクテハヨシ

痺

此其身ワカモノト覺ヌナリ 後人麻木ト名ク麻木頑

寐トテシヒ、木ハスルムニ此モ皆積アツテ一身経絡
ノクワイアレクナル故邪モアタリ易ク赤中テヨク害
ヲナシヤスキヨリシテナル也凡此類凡寒湿ノミ気合メ
ナルトコロナリト云ニモアラス凡寒湿ノミ内イツレニテモ
トコロ氣血ヲ凝滞シ消亡スル故ナレヘシ

治方 温泉 附子桂枝乾薑之類

癲癇狂

癲者顛倒之義癇者簡之此症発リタル間ハ氣性不
常簡畧疎暴ニメ人事ヲ不知ナリ又問之此症タヒク
發セスアイタガアルナリ狂ハ狂乱ニ三証其因皆積氣
心ヲ衝テシカラシム發スル処ノ形狀ニヨリテ名異ク三
症人更ラ不知メ少シク異ナルトコロハタトハ癲ハ寢テ夢

ヲ不見ト同シ癇ハウツラクト夢ヲ見ルカ如シ狂ハ夢ヲ
アリクト見ト同此症発スニ積氣鳩尾ノ指込腹ヲ張り
テ板ノ如クニナル其中癲癇ノ二証ハ不發時ハ心下元ヤ
カナリ狂ハ靜ニ見元時モ積氣ノ勢甚シ靜ナル時常人ノ
如ナル者アレモハ希ク癲者顛倒メ人更ラ不知泡沫
ヲ吹キ歎声ヲナス癇ハアツト泣出し或笑ヲナス人更
ラ不知手足震掉ス畢竟倒レサルノ癲証ニサテ暫
アツテ積氣ヲサマレト常ノトラリニナル癇ハ甚シケレハ毎
日幾度モ發アリ又一日一度モアリ一年三度發モアリ
ニ証ハ脈弦也小兒ノ驚風クセツキ大人ニナリ癲症
先ア癲ヨリ狂ニナルモアリ又三証互ニ相兼ルモアリ
狂者今云乱氣ニ乱心ト云ハコレニアラス乱心ハフツト

心乱テ人ヲ害シ身ヲソコナフモノヲ云是ハ積氣ヨリナス
ト云モノニアラス心病之狂ハ積氣ノ勢ツクノ鬱熱裏
盛ナルニ弱々シクミユレ少モ弱キカタク実病之方書ニ
此ヲ心血不足ト云ヘルハ誤ナラシウツテトシテ寢イリ
カタク或寢テモオソロシキ夢ヲ見驚サレテフツト起
恐怖ノ人ニ抱付ナトスルアリアラワス処ノ形状様々有リ
之癡スル前ハ必靜ナル所ヲ好人ト應對スルコトヲ厭イ
心端々トリシメナキヤウニテ何トナクモノ悲シク見ユモ
ノ也婦人思慮憂鬱ノ氣コレカタメニ壅塞シ積テ此病ニ
故男子ヨリ婦人ニタタ又経閉而瘀血責心ヲ狂ラナス
アリコレヲハヨリ見定テ瘀血ヲ除クヤウニスレハ愈
ルヲ得産後血暈ニテ狂ヲ癡スルアリ又積氣

血暈ニサソワレラフツキ 狂ヲ癡スルモ有此症強ク癡
スルハ治シヤスシユルヤカニソツヨカラス或ヲコリ或
靜ハ難治積氣腹底ニ沈アルトキハ靜ナリ浮ニ起
モノニ多初癡ハツヨクサワカシクノ後靜ニナルモノ
故初癡病勢盛ナル時ニ治スルカヨキナリ居スワリシ
ツカニナツテハ治シカタキニ脈數洪ナルアリ沈伏セル
アリ數洪ナルハヨシ沈伏セルハアシ、 陽寸ニ脈脈ア
ラハス故ニ然ルニ當世ノ積氣ニテ狂ヲ癡スルハ多クハ
陰脈之故ニ多ハ治シカタシ 治方 三症トモ
熊膽 狂 白虎加茯苓半夏 便秘者
承氣湯 凡此症ヲ泉ニウタセ上部ノ氣ヲ下シス
カスガヨシ一タシ快テモ年ヲフレハ又癡ヲ有ニ長ク責ヘシ
三十一

急ニセムルハアレキナリヲコツクトキハ其氣カラ見
合セテ責ルヤウニシヒタモノク如此スレハ快腹スル
モノ多キニ

怔忡驚悸

怔忡ハ熱氣心血ヲ動スル故ニシテシカラシム裏ニテム
サワク故外ハ見エスナリ驚悸ハ物ニビツクリトシテ
胸カヲトムヤウナリコレハ膽氣心血ヲ驚カスカ故ニ古
人血虚トシ血劑ヲ用タルハ不可トモニ熊膽或
參建中ノ劑用ヘシ産後ノ怔忡ハ血カ下ヘナリテ血
サタケテヤマス故ニ即血動ノシカリ血虚ト云モノ
ニアラス怔忡ハ属心驚悸ハ属膽ニ

健忘

ツヨク忘ノ意心竅鬱塞スル故シカリ此モ血虚ト云テ
血劑ヲ用ハシカラス此症属腎々水充足スレハ心腎相交
此患ナシ大ナ後ニ此アルハ氣血生スレハ自カラ復スルモノ
ノ老人コレアルハ多ハ治シカタシ 治方 交感丹加蜈蚣

不寐

此膽す心氣ガサヘテ寐ラレサルヲ云トカク肝膽ノ氣
ヲ達スルカヨシ狂症ノ不寐モ膽府不安ニテ心氣散乱
スル故ニ又停食ニテ中焦和セサルニヨリ寐ラレヌ
アリ不寐ト云テモ氣ハサヘテ心ハ休ム故其側テ
言フヲ悉クハ不知又傷寒後此アルハ津液不足ニ
治方 熊膽或竹茹 石膏湯 一鶏卵酒之類
灸九十俞 餌食

自汗盗汗

目アキテラルトキ出ル自汗ト云寤入ルテラルトキ出ル盗汗ト云方書ニ自汗ヲ阳虚トシ盗汗ヲ阴虚トスコレ不可自汗盗汗氏ニ陰陽ヲ分ヘカラス名衛氣衰ヘ表ヲ守ラ失イ腠理固密セサル故汗スナリ然ニ先盗汗ハ自汗ヨリ重シ自汗ハ常疲ナトスルト表氣衰テ出ナリ又實人汗多キハ氣ヲ張テ出ル盗汗ハ衛氣ノ守ラ失フ故ナリ故ニ盗汗アル自汗モアルナリトカク自汗盗汗氏ニ汗ニ氣ヲツケスタク營衛ノ氣ヲスクマカニスルヤウニスヘシ自汗盗汗氏ニ鹿薨牡蠣ナトラ食スヘシ絶汗ハ死ニ近キテ汗玉ノ如クニ流額又ハ鼻頭ニ出ルモノナリコノ時ハ冬附ヲ用テ効ナキモノニタゞ絶汗ノ出ルト知テ前方ニ大劑苓桂

附ノ類用テ可シ

諸失血

衄血コレ督脉絡ヨリ逆上スル血ニ太陽経モ一ツナリテ血ヲ出ス是熱氣逆上ス故ナリ故ニ多出ルトイヘ氏クルカラン実症ニモノニ多アリテ虚人ニアルヲ希ク陽氣衰ニ逆上スルヨリナサルニ酒ヲ過スモノニ多シコレ酒熱ニテ逆上スルナリコレヲ毒ニ止ルハ却テアルハサ氏殊ノ外多出ハ止ルモヨシ扼子ノ末ヲ鼻中ヘ吹入ルヲアリ又胡椒ノ末ヲ血振カケテトマルモアリコレ其氣鼻中ヘ入レハ胡椒ノ氣ニテ上部ニ塞ル氣ヲ開ハツテ血收ル故ナラシカ三葉芥ヲ末而用モヨシ俗ニウナナノモヲヌクアリコレモ督脉ノ通リナレハ上部ニテ氣ヲ開モノニ

足ヲ水中へ入ヒヤスモヨシ此モ上部ノ氣ヲ引下スル吐
血此胃口之蓋血ヨリナスヲ多シ此蓋血トイフハ何ヨリ
畜スルソト云ニ上部ニモ中部ニモ下部ニモ其処ヘヒ
ソレガスル破ルハト其ヨリ血出一タヒ如此ナレバ其処ヘヒ
タトツミクテ畜血トナル其破レタル処愈サレノ間ハ
イツミテモ出ルニ其処科ヲサマハ水ノ科ニミナテ後溢
ルハト同シクヒダト血カタマリテハ日ヲ歴テ出是故ニ廿日
モ止テハ又出ルアハナリ多吐血スルハ血枯テ血色モア
シクナルニシカルニ黒血カ鮮血カト云フヲ知ヘシ畜血其
色黒シ此瘀血ニ又ヨキナモ畜血ニシテ出ル有
故ニ畜血ヲ吐シテモ面赤大色ヲ見スアハルモノ
鮮血ハコレ胃ヲ傷テナス故アリ然レ故ニ血色ニ

用フヘシ飲酒家ニ吐血多キハ酒熱ニテ血ヲ煎ス故ニ
血ハ熱未得テメクルト云ヘ氏過從不及ニテ反テ熱極ルハ
滯ラメ酒熱ニテ胃府ノ裏面ヲ傷ル故然リコレヲハ
酒ヲヒカヘルヤウニスヘシ又食毒與毒其外毒物ニヤ
フラレ吐血スルアリ無内外共ニ肌肉皮膚ニテ色マ
ワメアリ故腫物ホトノ如ク破レサレハ血ハ不出モノニサテ
吐血ノ脈ハ靜而虛ト云カタカヨシ大而實ナルハ吐血止ト可
知血毒行スルハ脈浮大實ニ
治方 膠艾四
物之類 欬血コレ不欬而血出ヨリアレキフヤリコ
レ肺ヨリ出ルト云ヘト皆在アルニアラス又方欬甚シク
メ咽ノ迫ラスリヤフリテ出ルトコロニ肺血出ルト云ナレハ
死ニ近キメ咽ノ道ハ常ニ子ゲアフテアリ故ニ欬

ストキハソノニ、キニテスレヤフレ出ルナリセリハ
肺管ノトコロナレトモ傷テ血出ハ食物ノ通ル咽
タタ虚症ノ勞症ナトノ長病ニ歎有ハイツトナク咽
喉ノ潤乾燥シ歎ニテヒタト穿牙故ニスル破レテ血出
方書ニ肺血心血ナト、云ヘハアシ、只肺部ノ血ト云、
ハクルシカラス吐血モ又同シ唾血ツワキハ舌ノ孔ヨリ出
心ハ竅ヲ舌ニ開ク唾キハウライナレハ腎ノ主ナリ
然レハ心腎相交ト云ハ即阴阳気血外降和順スル
故唾血ヲ腎ニ属メ云シカレハツハキニ交リ出ル血
下腎ノ藏ヨリ逐シ出ルト云フニハアラス外降ツ
子ナラスメ氣血モメクリウトクナレハ血モ凝ナトメツ
ワギニ交リ来ル筈ナリ
痰血ト云ハ痰ニ難リ出

ルニ皆虚症ニ有ツナリ 実症ニテモ氣血凝結メ
痰血歎血スルアリ此ハクルシカラス 脉色ヲ察メ可知
ナテ又ニチカイモノ有朝ニ出ルナトハヨク心ヲ用察ス
ヘシ寐テ居ルアイタニハグキノ血办ヘ飲ミ込滞テ朝ニ
出ルニ楊枝ナトツカフトキニ出ルト同シ是ハ外ノ血ハ
不出朝フニノミ出ルト云ニ心ヲツクヘシ痰血ト云ハ即
歎血ニ別ニ論スヘカラス 咯血此無声ニテ血ヲ吐
出スナリフツトイッルモノニ此モ方書ニハ腎藏ヨリ
出ルト云ヘ氏タ、腎ナニ属ストハカリ云々キモノニ上部
中部ニ凝結メアル血ノ出ルニ此ハ吐血ニ属スヘシ吐
血ハ一度ニ多出ルニ 便血コレハ下血ニ類シ又痔
ニテコレアルヲ多シ真ノ便血ト云ハ大ナ後ニ有

二

溺血大

ナリ元症此ヲ便血トノテ
 腎虛ノ証ニ有テ其甚悪キ症ニ
 シ血淋ハ溺血ニ似タレ淋瀝
 便ノ如ク出ル腸凡下血此當
 タリ血ヲ動メ下血スル是痔ノ
 痔俄ニ下血スル傷凡之灸處
 シ血ヲ出ス之故ニ黄芩或黄
 黄芩湯ヲ用モヨシ

遺精 附遺溺白濁

遺精ハ肝ノ鬱スヨリ腎ヲ動
 小便ハ催ト陰莖勃起スルニ
 イアリ夢ニ入り漏ルナトモ
 其觸ルトコロヨリノ夢ニ

情欲之火動スハナリ又実
 溢出ナト云フアレトフノ
 ハ夜コトニアルトテモ大抵
 トハ各別ニトカク肝膽ノ氣
 動シ漏ナハ強テ情欲ヲ起ス
 タクセツク故ナハ何トソク
 キフナリ

治方 灸 九十俞 熊膽

遺溺此下焦ノ氣不順ニテ
 後コレアルハ惡症ニ小児多
 ルト自止之濁ハ人凡寒ニア
 化ハ白濁トナル閉ルヲツヨ
 ケハ白ノ膏ノ如クアルナリ
 全時多白濁ヲ以精

滑トスルハ誤ニ滑ハ精ノ出甚タツ云此ハ腎部ノ
ク、リカイナキ故ニ 治方 三症ニ 温泉

淋

此膀胱ノ爵ナリ久シクハ小便膿ノ如キコレヲ膏
淋ト云今ノ淋ハ多瘡毒之氣アルモノ下痔便毒
肝腎ニ聚テ小便ヲ淋洩セシムルニ

治方 土茯苓 大黃 通艸 車前之類或

温泉

痔 附膀胱

其因寒濕ニ大腸ニ寒濕アルト大腸ノ氣ヲ塵塞
スル故ニ此症ヲナスニ走り痔ハ如何ホト多下テモ不
苦此ヲ止葉ヲ不可用今云下血ト云モノ皆痔ニ下血

スルハ灸ヲモスヘカラス下血ナキモノハ初ヨリ灸スヘシ
膀胱モ痔ノ類ニ大陽ニ寒濕アルク、リアレクナリ
シカリ大腸ノ氣不順メ穴ヲ生スルハ時々下血モスル
此穴腸胃ニ生スルハ痔ニナリ肉ヲ越テ外ニ生スル漏ナ
ルニ此ハ腸胃ヨリ外ノホウニモアレキ血流レコム故
其アタリノヨキ血モ化メアレキ血トナリ漏トナツテ
愈カメシ 治方 痔無下血者十六七命或腰眼
下血不止者芋飯芥知膠苴之類 餌食 兔肉
蕃椒 イボ痔信石ヲ貼ス

大小便閉

コレ皆他病ニツレテアルニ小便閉熱閉多し膀胱
外腎スル故ニソノ勢ニテ内ヲ熱シテ小便子ハリテ閉ス

此肝膽ニアツカルニアラス當坐ニ道カワルニコレニハ熱
湯ヲ以テ手中ナトラシメシ腰ヨリ下ラムスカヨシ莫ク安メタ
可シ大便閉コシ多大腸ノ燥熱ニテ閉スニ 治方
小便閉 茯苓車藂中通大或去通艸車前加大腹皮大ニ

眼目

夫眼ハ五藏ノ精粹升リ注クトるニ故能クモノヲ照ス
ラナス鳥暗ハ肝ノ主ニ瞳子ハ腎ノ主ニ白眼ハ肺ノ主
ニ此輩ハ心ノ主ニ上下ノ胞ハ脾ノ主ニ鳥暗ハ物ヲ照ス
ス瞳子ハカリニテ照スト思フハ一際ニ鳥精ハ瞳子ト
相持ナナルニ物ノウツル黒眼モ主ニ故ニカ書瞳子ヲ
オモニズヘトモ黒眼最重シ又人ノ有兩眼ハ猶天之有

日月ト云ヘルハ人ノ眼左ハヨク照シ右ハ左ニ比スルハ見ヘカ
トシトニ故タラ日右ヲ月ニ譬ナルニ是又一際ナルニ人ノ兩
眼左右何其明異ナルニアラニヤ兩眼共相貫テアルニ天
行眼ノ如キ右ナリ左ヘウツリ左ナリ右ヘウツル此相貫
テ有シルシナリカテ黒眼ヨリ瞳子ヲシムルハ虚ニアラス
滯スルヨリナストコロ或ハ是瘡毒ノ氣ヨリシカルモノナリ
瞳子散大スルハ眼ハ濺ク処ノ精血不足スルナリコレ腎
虚ノミニハ非ス物体虚スル故ナリ黒花ヲ生スルハ陽氣
ウスクノ陰氣精陽ヲ拒故ニ視物不正或圓クニヘカ
見元是陽氣ノ滯スルニ皆鳥暗ト瞳子ト持合ナ
カフ故ニ物ヲニ見スルハ是陽ウスクノハリナキ故ニ
カテ眼熱ヲ畜シハヤニキハムニ黒ヤニ生スルハ甚アリ

キレコレハ変症ニヤニハ白黄色カ大法ニヤミ目ニ白
眼赤クシ鳥暗ヲタミコレテアシクミスレニサレ不苦実
眼ニ大抵目之精弱キ者ヤミ目ハナキモノニ虚人痢瘧
ヲ病サレト同シ凡眼病実眼多ク虚眼少キモノニ
故師門眼ヲ七味敗毒ヲ用本方ノ外一味ヲ加減ス
ナレ凡眼ハ眼ニ凡ツレキテナスツレ急ニ治セサレ忽腫子
鳥睛ヲ破ルニ七味敗毒ヲ用テ救眼サスレ百發
百中ニ天行眼ヲタ凡眼ノ内ニ敗毒可シ眼痛
モナク痒ミナクノ不見ハ虚眼ニ此ハ腫モナク赤モナク多
ニ精彩ラスク見ユレコレニハ雞卵ヲ用レ外障ハウレ
ナリ眼科ノ點藥可シ熊胆ヲ点スレ可シ内障ハウレ
ソフレニ時節ヨク鍼メヨキモノアリ先ハ難治ノ症ニ

青盲トハ青ソコヒ腫子青クナルレコレモ敗毒可シウレ
コレハトクニ鍼刺子ハナラヌモノニ膿ハ黄ハミ青キモノ
ナリ先是ヲハ難治ト心得レ長ク眼ハ虚実ニ不拍肝命
胆命腎命ニ灸スレ目ヨリ血ヲトルフハ氣目ナトニ
ハアリ長ク眼ニ不可シ雀目ハ各別ノモノニ多癖積
ヨリナス癖積其経ヲ塞テ目ヘソク精ヲ思マウ
ニマラス故ニヤリ此ハ四苓散ニ唐蒼朮ヲ加用
フルカ驗有ル方ニ癖眼ニ鶏肝可シ痘毒入目ニ難治
ニ腫子ノ上ニ白翳ノ厚カレト不治ニシカルニ眼少シ
見ユレモノ多シスキト見ヘスト云フニ不至ハマタモ治シ見ヘ
瘡毒目ハ入タルモ愈々タシ土茯苓刮見合セ用レシイレモ
幾アワビヲ用テアヨシ癩毒目ニ決メ不治ニ脾風ハ上

下ノ胞々、ルヲ云婦人産後小児ナトニ多有リ胞ハ脾ニ
属ス故名ツクコト、荆芥ニテ洗カヨキニ

耳病

聴耳ハ上部氣塞リ津液ヲ凝結ス故ニ甚痛ナリ其
ソコ子タルフニハカリ吹キリ出シハ痛速ニ退クモノ、是
膿血ニ非ス黄汁ノ津液凝結メナル処ノモノ血令ハ
カ、ラサシカ故ニシカレ氏久シクシテハ痢ノ膿血ヲ出スカ如
膿血ヲモ出スナリコレ実症ナレ人多キフニ七味敗
毒ヲ用ヘシ小児何コトモナキニ大ニ啼アリゾノ時ハ
脈モ數ニコレ吹キラントスレハナリ吹切レハ啼止ニ平人
之儀ニ耳ナコトアリコレモ吹切ハヨシ故ニ麻油ヲ入テ煮
耳ハアカノ多出ルアリコレハ氣テ津液ヲハリ出セハニ

不苦腎虛ノ耳鳴ルアリコレ上実下虚ニ又風熱上ニ
塞テ耳ナアリ瘡毒入テ耳聾スル難治ノ耳聾耳ニ
亀ノ小便ヲ度々サセハキコエ出ルヲ有也

鼻病

流涕ハ肺ノ寒ニ鼻閉塞スルハ肺ノ鬱ノ水鼻出ハ外邪感
テナスヲシ水鼻子バハ邪熱鬱結シ肺部ノ津液凝結シ
テ然リ寒ニ感メ水鼻出トモ鬱ノ熱ヲ主シ熱カ潤ヲ流ス
故ニ此寒内熱ノ鼻淵ハハナ出多ニ鼻痔ハ鼻中ニ物ノ生
スルヲ瘰癧肉ハハナタケナリ甚長キアリ百會ニ灸シテヨシ
コレハ外科ノ治アリ某劑ニテハ治シカタ酒麴鼻ハ肺熱ノ
難治クロミツクトイヨク治セス飲食過度ノ者ニ多シ酒氣炎
上メムシクサラスニサレ氏酒ヲ不飲者モ同ニ有ニコレニハ著

椒鶏肉ヲ多ク食し上部ニ吹出モノ多し上部ニアルウキ血
散メ治スルアリコノ症至急散ラ久シク用テモヨシ鼻不知香
臭者肺雍塞シ苦連 細辛之類可用肺命膏可
久矣

口舌

口ハ脾胃ノ主ニテ舌ハ心ノ主ニシカレ口中痛トキハ舌モ必
腫痛ス心胃ノ熱ト云ノ候ニアラス大抵口舌ノ症ハ胃熱
シコノ味ヲ失スルノ類胃熱ニテアルトトカク口舌ノ腫痛
者石膏甚効アルモノ此胃熱ヲヨクスシクスル故ニ胃熱
ヨリナレハ白虎湯ナトラ用ルセ人石膏ハ胃氣ヲウツド
云ハ氏胃熱アル方ヘ用レハ大益アリテ害ナシ胃氣虛シタ
ル人ニハ石膏ハ見ハカライアルヘシ胃中塞リ熱シサテ虚
シタル者ニハ人參白虎ヲ用ルナリ口舌ヨリ咽ミテノ痛ハ

耳結湯ニ石膏知母枳椇ナトラ用セ重舌ハ俗コジタトモ舌ノ
下ニ舌ダケト云モノ出ナリ多心脾ノ胃熱ニ外科ハ腐
葉ヲウケテハサミ切ル術アリ木舌ハ舌カ木ノ如クニ強直ニメス
クムナリコレモ心脾ノ胃熱ヨリ生フニ重舌木舌難治ノ中重
舌ハ長シキ木舌ハ急ニ死スル婦人氣塞リモノヲ苦ニスル者
多舌ヲ痛ク有コレラハキハメテ心脾ノ胃熱ニ口中吹出
モノヲナスニハ石膏大黃連小耳ヤサコレヲ用テ合ミシム此
方腹ヘ入りテモクルシカラス重舌 硼砂小 細辛大 二味未
吹入ルニ鍼ノ吹ハ即効アリ

牙齒

牙齒ノ主胃熱ヨリ生ス齒ハ腎ノ主ニ齒クキハ胃ノ主ニ然ルニ
胃熱ニテハクキニ熱ヲ生スルトソレニア 色ニワカレテアル中ノ牙

ナル故ソロト朽カイル故ニヨリハ朽ズシテ外ヨリクツ
ル然ノ臭気ナケハ虫ハカス胃熱アル寸ハ痛ヌナリ蝕齒ハ
ムシハハコレモ胃熱ナリ虫カ實ニ齒ヲハミマスヲ思フハア
シ、齒ニ虫ノ生ス故ハ胃熱ニテ齒クキカムセテ臭気有ニヨ
ツテ生スニ熱毒ニテ齒ノ潤乾カシテ故齒カ朽ルニ譬ハ老
木ノ生氣メクラスメ具トコロハ朽カ如シ齒養ヲ失ス故齒カ
コホレルンツヨク腫ルト其痛ヤムハ此ハ熱ノ毒スル氣味ニ腫物
ニ虫ノワクモ齒ニ虫ノワクモ同シ皆熱ヨリメムス故ワクハ
小兒ノ走馬牙疳俗ニハクサト云齒クキカ紫黑色ニナルハ此
等ハ熱毒甚シク急ニ瘰癧塞シテ氣ノ流行ヲ失スルハ

治方

白虎湯

咽喉腫 附喉痺

双乳蛾 單乳蛾

血 蝦蟆瘰

咽喉腫俗ニ云ノドケニ腫テツバキモ吞コレス食モ
不通殊外難儀スルモノニ日桔湯ニ懸霜礬石ヲ加用ユハ
其効速ニ咽ノ痛ハ桔樓黃芩知母升麻葛根黃連細辛旋子
連翹之類ヲ撰用テヨシ懸霜ハ咽塞ヲ開クニ妙ハ礬石ハ
熱ヲ解双乳蛾單乳蛾モノトケノ類ハコレハ小兒ニナリ
アルモノニ乳ヲノミカスルモノハ大頭瘰ハ大陽經ノ腫痛ニテ
咽痛甚シキハ蝦蟆瘰ハ少陽經ノ大頭瘰ニハ 茅
升 柴 芩 桔樓ヲ主トス大頭瘰蝦蟆瘰氏ニ續命
湯 七味敗毒ノ類喉痺此氣ノ通路スルノドニテキス食物
ノ通路スル咽ハ凡ニテモヒクトフツトヲコレコトアルモノハ
此症クセツクトヒタト有者ニ一度フクレセツクト血カ其処ヘ
凝マスキシテヤスレ又血凝血スルニ從テ血ヲ吐出スニツハ

キツカイトナキナシ瘰癧ト云ハシビレキミニテイリクトスル
咽ニ骨ノタツ如クヲホ元ニ早クツキヤフルカヨキニ凝血
カフクレテ咽ヲ塞グナリカフバシキモノヲ食ト喉痺ノクセ
有モノハヨク起ル

瘰癧

コレ気令ノ滯滞スルヨリ発ス瘰癧者其形状累累々トノ頸咽
アイタラ歴テ出ルヲ以テ名ツク凡腫物ハ血令ニアツカルト
コロ多し瘰癧ハ血令ニ血テツタハス故ニ氣腫ト云サテ血令
ノ腫物ハ愈ヤスク氣令ノ腫物ハ愈カタシ故ニハキクトラチ
ノアカヌモノナリロアキテ氣腫ト云ニ至テモ膿汗ハ
不出タハ黄汁白液ノミミククト出コレ氣令ナ故ハ
血令ニ及ハ膿血出ルハズ

全ク血令ニアツカラサル

故ニ黄汁ノミ出ル初ハ結核トテサナラヌフ如シ

治方 氣劑

加桔梗貝母或黄芩

温泉 肩井

膏肓 身柱曲地ナトスイフン灸スヘシ此症肉物ヲ食
酒ヲホトヨク飲テ榮衛氣血ノ和スルヤウニスヘシ如是スハ
ヨク熱ノ膿ナト出故其処へ凝結シタム氣ヲヒラキテヨ
キニ膿血ストツルホトニナレハヨク愈ルニシカラサレハ水バカリ
出膿不出故ニ愈カタク一度愈トイヘヒマダ腫出ルモノナリ
世俗此理ヲ不知シテトカク食禁ナトラシテソノ膿コト
ヲキラリ

牙

牙可作疥

其出ル状釘頭ノ如クナレヨリテ疥ト名クコレ一種別段
ノ毒氣ニ平常腫物類ノ毒氣ハ甚コトニシテ毒猛列

ナリ凝一処ニ集ル故外ハ不出初發ニ粟粒ノ如ク見ル具
根動マセ凡不動高ク腫不出ノ漫腫ニナルニサテトコマ
ラム氣ガウキクトノヲキツカヌヤウナモノニ此毒氣甚シ
キニヨウテハ脈モ救ヘコシハ膏梁ノ味ヲ食シ氣血塞テ
生スルナリ故ニ素問ニモ膏梁ノ變足生大疔ト有り日本ハ
膏梁ノ味ヲ食スルヲサナキ故ニ疔ヲナムモノ多カラズ
紅絲疔トテ紅ノ線カ升ルト云フアリ此ヲ速ニ断テ切カ
ヨシサナケハ心ヲ責テ死ニ至ルト云フ
治方 敗毒劑
櫻ノ皮ヲ入テ用フトカク涼劑ヲ用ルカヨシノじんヲ根葉
共ニ黒燒ヲ酢ニテトキカシラヲヨケテスル此奇方ニソレカラ
洗ヲウクニヨク根ヲ吹出シテヨシ灸ハヨク見合スヘシ

癰疽

附肺癰
癰腸癰

癰ハ輕ク疽ハ重シコト皆氣血ノ流行惡ク閉塞スル処ヨリ
然リ癰ハイカホト坐トリテモ廣テモ底ハ深カラズ疽ハ
坐トリ小サクテモ底ハ深キモノニタシク毒氣ニテ底ヘク
サリ込テ死ニ至ル者ニトカクナルホト地腫ヲヨキヨロシキニ
コレハ陽氣ノメクリ、實ナル故ニ久シ地腫モサノミツヨカラ
スクホミテ見ルハ甚アシキニ脈ハ浮救ナル程カヨキニ
沈ナルハ惡キトス
治方 初發 敗毒用ヘシ灸ヲ其
マワリニタスヘシ膿ヲモチテカラハ參耆白止ヲトニテ
内托スコノ症ニハ雞卵ヲ大分用ルカヨシ參耆ヨリ雞卵
ノ効ヨロシキニ蜈蚣尤ヨロシ肺癰ハ今ノ癰症ノ類ニテ痰
血出ルナト此類ナリ咳ニテ肺藏癰爛スル腫物ノ如クニナル

ナリ 腎癰ハ先キツカイナキモノノ肉厚キ処ナ
レハコレモ雞卵ヲ用テヨロシキニ 腸癰ハキハメテ
察シカタキモノナリヨリヤヲ用テ此治方始有膿蓋以
大附子芋窮谷中大黃桃仁原耳少膿汁出前方去
大黃桃仁加黃耆當飯雞卵ヲ多用ヘシ

疥癬

疥ハ肥前瘡ニ癬モ疥ノ類ナリ方書ニ五疥五癬ト有
虫ノ生スルヲ虫疥ト云此臭氣ニヨツテ生スル乾疥ハコセカ
サト云ウハナクカハキアルナリ此肥前別ヨリハヤリシ
メタレ故ニ名ツケシトナリ其因寒濕ニ皮膚ノ間ニ毒氣ア
リテ肉令ハカマワヌ其痒ト痛トアリヨリ傳遷
シタカモナリ此目附処ハ手足ノ指ノ岐ニ出ルヲ以知之

治方

土茯苓劑

雞肉此症ニ外ヨリツケサナ

トノ早ク愈スハ甚不可シツノ如クスハ愈テ後害ヲナス
ト多シ毒氣外ニ不発内ニ陷レテ腹滿浮腫ナトラスコレ
外ヨリ速ニイマスノ害ニ 硫黃ナトヲスリヌハヨク発メ
ヨキニトカクイカホトモ外ニ発スルヤウニスヘキニ後ヨシケ
テ水氣アルニハ桑白皮大腹皮ノ類ヨキナリ又阴囊
腫痛ハ瘡氣肝經ニアツマニ故ナリコレハ土茯苓劑宜ク
流ヲ醬酒ノツケアブリニ食ス又黒焼而酒ニテ飲ムコレニハ
ツヨク発シテヨク愈ル

疣瘡

シラクモナリコレハ皮膚ノアイタニ凝血アリテソノ上ニ上
部ヘ凡寒濕毒ヲ感シテナスト見ヘタリ小兒尤多有リ

サノ根ヲアキモノニテモナキナリ是モツケサ来リハア
シ、荊芥ニテ洗フカヨシ若甚シクテ葉ヲ用ハ士茯苓
防凡升大黃芍藥耳叶可シサレ氏大方ハ其マ、
テモ自愈ルモノナリ

癰瘡

ハキカサナリ其因寒濕之濕ハ下部ニアタリ、安キモノ
シコレ夏ハ愈テ秋ヨリ冬至ル癰瘡速ニ治シカダキモノ
如何トナハ寒ノミナハ温散ノ去サレ氏濕ヲ兼テ
有故濃滯スル
治方 土茯苓劑、雞肉
温泉

癰凡

癰凡此オスレ癰凡ニ属ス氣血凝滯ノシカリ白癰ハ

白癰ノ類此紫癰ハ赤癰ノ類黒癰者黒癰ノ類也汗タマ
リ腠理ヲ閉塞ノ生スラ汗癰トモ癰瘍凡氏云硫黃
ニテ宜洗凝結ノ血ヲ硫黃ノ湯氣ニテヒラク故ニヨキ

癰凡

癰凡トモ云天地中ニテ甚惡キ毒氣アタリテ氣血凝結セ
ラレテ熱ヲ生シ肌肉筋骨ヲ腐爛サセテシカリ其毒氣コト
ノ外ハケシキニ其父子兄弟傳染スルトコロニ尋常トハ
ナカエリ此オ不治ナル人各所知ニ別カタナハ湯治ヲ二年
モ二年モシメテスルカヨシ俗湯ニテ凝結ノ血ヨリ癰膿血多
出ハ愈ルヲモアリ又蜈蚣ヲ多酒ニ浸シトケテ膏月ノ
如クナルヲ用モ可シ

下疳瘡

附便毒楊梅瘡

下痢便毒楊梅瘡同瘡毒之有自發有傳遷之者父母ニソ
ノ毒氣アルヲウケテ發スモノ有傳遷シ發スハソノ人ノ毒
氣ヲノカヘウツリ氣血カ悪クナリテ凝結スル故ニ發ス有下痢
ヨリ便毒ヲ病アリ初ヨリ便毒ヲ病モアリ畢竟一種ナル
便毒ノ名ハ小便ノ通スルハズカ不通ノ凝滯シソノ毒ヨリ子トコ
只腫アルナリ小便ノ毒氣ニ便毒ト云此ハ随分其所ニ
テ毒氣ヲクイト拔テトルヤフニスヘシ誤テチラシ或カワカ
シ命セハ毒氣軀中へ滲入シテ大害アリ下痢瘡ハ便毒ニ
對スル毒氣又ケヤスシ此モツヨク痛ト毒氣ヨリ順ル
ソレヲ不知ノ只其痛ノミヲクルニ寒菜ナトヲ服シ或ハツケ
菜ナトヲ連ニ愈スト甚害アルナリ瘡氣經絡骨節へ
シミドリ金身ヲ病シルニ或ハ肝ニ入ル目カアキシリニ

ナルコレ毒氣ニテ眼へ濺ク精氣ヲ奪ヒ養ヲ失フ故ニ腎
ニ入ル耳聾肺ニ入ル鼻崩レ心ニ入ル舌腫舌ニ穴ナトアリ
フアリ脾ニ入ル咽或口中ヤフル又咽ノヒナドナクナリ有
此各ノ經へ毒氣スルノ害ニシテイツレモ不治ニソノ内口舌ノ
痛ハカキニサテ世ニ便毒ノ名ヲ忌テ厥疔云凡肝經ノ
疔ハ疔ニ屬ス故便毒ヲ屬ノ厥疔ト云此誤ニ大抵疔凝テ
腫ヤフルト云ハ希ニツレナレハ厥疔或ハ疔毒トモ
云ルニ便毒ヲ指テ云フハチカイシ

治方

土茯苓 刺車前

大黃 通草 雞肉

溫泉 雞肉ハ瘡毒ノ氣周身經絡骨節へ滲入セ
ルヲヨク温テサラヘイダスナリ鼻ナト崩レンドスルニ
尤ヨシ便毒ニモ雞卵ヲ用ヒ随分毒氣ヲ發ス様ニ

スルカオ一ノ楊梅瘡多発スルカヨシ毒氣表発スルハ
此瘡毒ニ土茯苓ヲ多用ルハ此水道ヲヨク通利
スル故毒氣ヲ水道ヨリヌキ出ス之久シク脈スルハ脾胃
ヲウツナト云ヘ凡サニアラス便毒下ト云モ横根処
ニ凝結ノ居ルモノカ直ニ下ルトニアラス大黃ナトミテ
ソノトコロノ毒ヲスカスト云ホトノコト也 苦大黃ト組
合セハ其功イキシルシ 通利車前此モ小便道ヨリ
毒氣ヲ去ル方ニ便毒ニ灸スルハヨク色ツキテアラ
スヘシミタ腫ラコルトキ灸スルトヨツタ毒氣散スル也

折傷

折傷ハソノ処破レ血出シハヨシ不破ハ凝結メ瘀血トナリ
ソレヨリヨキ血モツレテ悪クナリテ爲害故ソノ処ヲ切サキナ

ナトシテ血ヲ出シタキモノシ

小兒

驚癇

方書ニ驚凡ト云凡状ヲアラワス故ニサレ氏慢驚凡ナドハ
凡ノ字ヲ付ル不可ナルト云 急驚ハ病勢剛ニ
直視搐搦シ口鼻ノ氣熱ス此積氣アリテメクリアシク
ソノ上何ニテモヒツクリトスルハリアイニテスワト凡ヲ
引コミソレヨリ積氣ヲ動シテナルハ乳哺ノ小兒此
アリコレカクセツクト長メ痼症トナルハ慢驚ハ漸ク
以テナル何ニテモ孩兒ノ内引ミラヒテアレハ後多コレミナ
ル吐瀉ナトノ後イツ氏ナクコレニナルハ又乳食不足
衰々寸皆此症ヲ發ス此ハ口鼻ノ氣冷ハコレモ本積氣

ニテメクリアレキ故ニ脾胃ノ氣虚ヲ發スルニ故ニソノ才
勢元ヤカニ此症一旦快テモ又發ス多必死之慢
驚ハ多虚ヨリ發ス急驚ハ実症ナリ小兒ニテモフツト
發ルナリ慢驚ノ急驚ノコトクダセク發ルハ尤不治之

治方熊胆灸治

疳

此症ハ小兒ノ耳味ヲ食過シ中焦ニ停滯ノ虫ヲ生シ積
結フ故此ヲ病ニ其テ状形瘦色アシク食ストイヘ氏身ノ
潤ニナラスコレ虫ハミケス故ニ疳ニ浮アリ治シカタ
キモノニ食養ニナラサル故ニ疳ニヨリ土ヲ食或土器或炭
或血生米ヲ食フアリ皆虫ノナスヲナリ凡疳疾皆虫
ヨリナスニ疳眼ノ育ルハ腹内ニテ一身ノ養トナル水穀

ノ精粹ヲ虫ガハミケス故ニ目ヘツクトコロノ精氣コレカタ
メニ消耗メ肝氣トシト鬱塞シ眼ノ養於此断ス故如此然
ルニ今疳症目育ルト其テ多愈コト瘡毒ノ耳目鼻ヲ傷
テソコヘスルト同シ治方灸治自九至十四熊胆
此症赤蛙鰻ヲ用ヘニ品氏疳虫ヲ殺シ又ヨク身ノ潤ヲツ
クル故ニ他ノ藥劑ヲ止テ此ヲ用ヘシク用イテ疳虫下ル
アリ錢氏六味丸ハタ潤ヲトルノミナリ

瘰

瘰ハ胎毒時氣ニヒカサレ發スモノニ方書ニ生ノ寸惡血ヲノ
ミソレカ胎毒ニナルトアリサモアルヘキコトナレ氏又袋ノ子ト云
モノアルハコレハ胎毒ナシトイハ子ハナラヌシカハ此論ハ用
ニ不足ソノ上惡血ヲノミテモ生ルハト直ニ口ヨリ吐出シ又ハカ

ニコト云テ便スコノ吐下テ悪血ハコトク去ヘシ然ハコノ
胎毒ハ如何ナル者ソト察シ見ルニ十月ノ間胞胎内ニ有寸
甚ムセルトコロアリテ気血コレカタメニ悪クナリテ居ルコト胎
毒ト云ヘシ然ハ人々多アルハスミコノムセル処ノ氣後ニ
奈ノ痘トナルト見ヘタリ然レ民人ニヨリテ痘ヲセヌ者有リ又ハ痘
アリ怪クソレト不覺者モ有リ彼セタル氣血人ノ府藏経絡
ノ間ニカクレアリテ後天行ノ疫ニ相和シ痘ヲ発ス故ニ痘ハウム
シカレニ其膿汁ニナルトコロ悉クアシキ血ニアラスヨキ
血モ津液モアシキモノニ化セウテ膿トナルカサテ元アシキ
血ナレハ不発ウチハ甚可患苦ナレタナシ時氣ヲ兼サレハ不発
故ニ年ヨリテ痘ノ流行ト不流行ト有兎角依時氣呼出サルナリ
サ有ツウナ者ハ五嶋平戸八丈嶋ナトハ痘ヲセストイユリ

唐 北狄曰
以其習尚
掠人胎也
俗人男非也

漢ニテモ上代ハナカリシ後漢ノ寸北狄ヨリウツリ来リタルト

云故ニ唐瘡トモ云 日本ニテモ古代ハナシシカレハ

タ、胎毒トシニアラス疫氣ニ見コト分明ニ發熱序病初

出痘ホミセ起腫アラウミ貫膿ヤミカク収靨ハヤシ結痂ヨ右三十五皆テ復常

ニ其内輕キ痘ハ十五日ヨリ内ニ結痂ス惣体ノ日ツモリ

ハヤキモノニ重キ痘ハコノ日教ラスキテ久シカルニウ

ララウツトテ再痘メウシカヘリ膿ヲモツフアリ板砂凡

俗ニテ酒湯ヲカクルフアリ唐ニテタシカニ酒湯ヲスルト云フナシ

必デヌトテモ不苦輕手スクイナトニテヌクフホトニるヘシ行

水ナトサスルヤウニスレハ凡サトヒイテアシクナルニ痘ノ

目ツケハ耳輪ノ冷ルト足ノヒヨロクトスルトコロニシカレハ

時氣ニ傷ラル者コレヲノフアリ又ラニヌナトスルモ目付

序ニハ熱強シテ絶入スルホトカヨシ如何トチハ熱毒ヲ発
出ス故ナリ初チ熱不鮮而始終熱アルハ熱毒深メアシハ
初發熱ツヨク出瘡ノ寸ハ熱ヤルホトカヨシコレヨリ又起
腫ノ寸ハ熱サスモノナリ貫膿ノ寸モソノトラリナリ初チノ
寸厚ナトアルハヨキニ此モ熱毒浮下スル故ニ然レモ起腫
ヤ貫膿ノ寸ハ甚キラフク浮ニヨリテ元氣脱スル故ニ十分
起腫貫膿モサレハサテ瘡ハ色ノホツコリトシ辰砂ナト
ヲフリタル如ク地界正シムツチヤリトヒトツニナラヌカ良
出モノアシキハ蚊蚕腫ト云テヒエノ粥ヲホツケタル如キ
ハ地界不介ミツチヤリトスルコレ熱毒深メ元氣ノ張ナ
キ故ニ又黒陷トテ黒クナリテ先ノ陷ルアリコレ甚危症
ナリ凡惡瘡ハ甚臭氣アルモノコレ熱ニテ津液ヲムシ亮

故ニ是ニ依テ乳香ナトラ煖テ惡臭ヲ避ルニサテ發ル処
ニヨリテキラフ処アリ任者ノ二経ハ氣血ノヲモ通ル処ニシテ
血氣トモ盛ナルトコロ故ニ天庭或眉間ニ多出る者ハ氣血
停滯スルところ多シ故ニ危症トナル者多シ是血熱ノ甚故ナ
リ目ノ下吻又ハ鼻ノ辺ニ多出るナトコレハクルシカラヌ
又瘡多出トイヘス今ノヨキハ不苦少シトテモヌケアシキハ
心モトナキモノニサテ大抵痛ヲ實トシ痒ヲ虚トス故ニ痒ノ
アルニハ神劑ヲ用ヒ結痂ノ前ニ瘡ノ上クホムアリコレハ脹
ツヨクノクホム故然リ脂ニアラス瘡ニ有形ノ有神無形之
有神具神カ内ニアル惡氣ニ觸テ瘡トナル其神ハソノ惡氣
ト相合スルモノ是蓋一種ノ瘡ナリ前ニ論セシ如ク今
瘡ノ膿血本アシキ血ニアラスアルハ惡血ニテハナシソノ觸

トコロニヨリテナリサテ虚弱ナル児ハ痘輕キモノ多ク壯實
ナル児ハ多痘重キ治方凡痘ノ治ハタ、熱毒ノ甚キ
ト元氣ノ虚トラヨク察シテ施ヘシ乳食平常ノ如クムル
カ健ナルモノニハ葦劑ヲ用フヘカラス始發熱ノ時ハ升麻
葛根着葉ノ類ヲ用大熱熱毒吐ナルトキハ七味敗毒起
腫貫膿ノトキ黃芪建中或保元湯芪附陽芪桂湯
其病候ヲ察シテ用ヘシサテ熱毒甚シキ者ニハ桂枝容易
ニ用ラレス熱毒盛ラ出痘或起膿或貫膿マ、ロヨカラス
或痘ノ色アシクナリ或ハ不食煩悶ナトアルニハ速ニ香中尺
澤ヲハ子切テ、血ヲ出スヘシ如此スハ内血熱ノユヅミクツ
ロキテ大ニ快キコトラ得ルモノナリ尺中ヲハスルニハカミソ
リヲ以タチタルヘシ血熱甚キ者ニハ黑血出ルナリ血熱ノ

勢イ殊ノ外ツヨキニハハ子切テモ血不出アリ

婦人

妊娠

夫妊娠ノ義ハ天地自然ノ妙ニメ人心ヲ以測識カタキ知有
故今論スルコトナシ大槩男ハ左ニ位シ女ハ右ニ位ス其位差フアリ
コレヲ俗ニ坐スミト云又腹ノヘツタリトシタルヲ女トシフシモリ
トシタルヲ男トス大方コレニ合モノ也 惡阻コレ妊娠ノ三ヶ月ノ間
アリ或初月ニモアリ三ヶ月内胞胎墜取ス故シカリ今妊娠スル
ソレハ胃袋ヲ上ヘモケアケテクル故胃ノモヤウチアヒテ此
ヲナス四五月モ経テハ胃モソレナリニラケツキテモハヤクルシカラ

ス然レハ強テ積氣ニヨルトイフモナシ其形嘔吐惡心
頭眩惡食擇食肢體沉重好食酸鹹或寒熱心中憤悶等症
アルヲ云サテ妊婦惡阻セアルモノ少シ性實婦ハコレナキアリ嘔吐甚
シクテナシセハモアエス者アリ腹へ入知僅ニニクコレヲモツ子
ナラハヨホトアシカラニ妊婦ハサホトニナシコレモ妙知ナリ某
ヲ用ハ氣劑ニ木香橘皮紫蘇ノ類可レ凡妊婦ノ内ハ枳芩木
香ヲ主トシテ用又枳橘ノ類用テ可レ故方書ニモ枳芩木
香母胎ノ某ト云テアルナリ妊婦水腫小便澀或欬或泄瀉ス
ルナト世俗コレヲサガト云コレ大方惡阻ノ後ニヲコリテ産後
テアリ又ハ産後ニテモ其キ有フアリ又ハ其状狂症ニ似
悲傷或喜怒失常コトナリコレヲノアルハ其子多ハ
狂簡ヲ患ヘ又コレヨリメ産後直ニ狂ナルモアリ妊中ノ腫

氣ハ産スレバ自消ス又不消モアリ妊中ニ其治ヲナサ子厄大
方ハ不苦厚アルモ貧賤ノ家ナトハカマハスニヲクナルホト不苦
富貴ノ家ニハコレヲ治セントメイロクト某ヲ用却テ佗症ヲ出
シ小産ナトスルアリ欬不止ノ産後ニテアルハ其ヨリシテ勞
ニアルナリサナキハ大カタ産スレ止ニ水ハラシト云ハ妊スルヨリ産
スルマテ水氣アリテ産時大水下ルモノハ妊婦ノ始寒熱往來
或欬ヲ兼テハコレ凡邪ノ氣劑去厚朴加紫蘇大腹皮ノ
類用ヘシトカク妊婦ハ腹内胎アルユニ臍府ヲ上ヘラシアケ
ル故ニ氣塞リヤスシ蘇ヨリ氣ヲ疏通ス故ニコレヲ用テヨシ
腫氣アルニモ紫蘇大腹皮ノ類ヲ用厚ニハ治中ナトラ用
テヲクモヨシ脾胃虛スルナトハ其形狀ニテ知ルハ妊中
ノ傷寒ハツ子ヨリ治ムツカシ其症ニヨリ治ラ施ヘシ痢ハ氣
ハ四ナニ

七情 喜怒哀憂
思悲恐驚
喜怒哀樂
愛惡欲

劑ニ苓連 木芍ノ類用ヘシ大黃桂枝ハヨク見合ス
ヘシ容易ニハ用ヘカラス腰ヲ温カヨシ腰眼ニ灸スヘシ十四十六ハ
腰部ナレ共此用捨スヘシ妊中ニ下血ナトスルアリ然レ共又其
下血ヲ止ルモアシ、大抵苓芍枳木茯苓ノ類可ナリ又産前
倒レナトシテ血兩道ヨリ多下ルアリコシハ先腰眼ノ灸ヲオ
一ニスヘシ世醫半隻厚朴ヲ妊娠ノ禁忌トスレ共少モクルシカ
ラス橘皮ヲモ不厭枳實ヲ入テモヨシ凡妊婦ニハ有熱ヲ忌
熱アリハ墮胎スルアリ冷ルブンチハ墮スルナシ故古来
其熱物ヲ忌熱又甚冷物モイム又辛味ヲモキラフ
サレ共辛物ハハツハハヨロシキ、胎動ハ多熱ニテ動セシム苓
木枳ヲ主トシテ用ヘシコレヨリシテ墮スル有 子痼七月
以上ニアリナリコノ時ハソノ子七情具リテ動スルカ知レ

子驚クキマアリテ然リ子ヨリテ母モ痼狀ヲナスニ子痼
ニテ母自舌ヲ切リモアリタトニオサマリテモ生出ノ子ヤリ
ニタハヌモノト急ニ熊膽ヲ用ヘシ子懸コレ胎子自カラ不安
上ヘアアルキナリコレアル者ハ大方小産ス是ヲ俗ニツリヲノ病ト
云フ氣コレ子ニヨリテ氣ノクラヌナリ凡妊中ノ氣カメツリ
ニクシ故ニ氣劑ヲ用モ可ナリ子淋子膀胱ヲオス故ニコレ
アルニ五苓散大腹皮可シ轉胞妊娠ノ小便通セサルヲ云
大抵七八月目有ルハ先ハムツカシキ症コレ胎下ヘス
サリテハコヘカリテキテ小便ノ出ル処ヲヨクアスキム人
參茯苓桂枝 沈香ノ類可シ又外ヨリ下部ニアタ、
ムルカヨシ崩漏此ヨリ直ニ胎下ルモノ建中ニ知苓紫
升ナト用不食ノモノニハ食氣ノ生スルタメニ茯苓

白木羊夏人參ナトラ用独參モズベ

産前産後

産ノケツクハ必ス小便頻數ニナル者又其痛ノ輕重ヲ
遲速知ル大抵子ノ生ルハ産ノケツクヨリ六時目或
其時カヘリテ生ルナリ其痛ノ体始ハ一シキリツ痛將
産コトノ外セハシク痛ニ胞中ノ子ハ内ニテ母ニカウテラ
シ其カヘルハ男ハ右ヘカヘリ女ハ左ヘカヘル其痛甚シクナリ
テ腰ヲ揉スニ左右ニ位シタル者中央ヘヨツテクルコノ寸小
便マズク頻數ニナル者多シ又ナキモノアリコレ將産ハ子下
ヘサカリ膀胱ハ腹表ヘヲシ上ニ故ニ膀胱内狹シテ少シク津ヲ
盛テモハヤヨ思ス故頻數ニ俗モコレヲ産近ツキタルト知ル
ニ腰左右カラスイテ中央ヘアツマルナリ其痛ト云ハ

子ノカヘルハ右ニシキリツ痛ムナリサテ尋常ノ痛トハ
ナカイツハハテギコハニ覺ルニ痛ニナガイアリツノハハルガ
イタムヨリ從ギミアレク覺ルヲ俗ニ腰産ト云之又産ヨリ
腰サホトニ痛フナクテ安産スルアリコレハ其婦人ノ
大ナル幸ニ將産スルハ破水出ラ俗ニ戸アケト云水ハ
カリ出ルモアリ其アトニ色ノ見ルモアリコノ水ハ胞ノ下水
ヲ盛ル袋アリツレカラ破ラ出ル又破水ト思ヒテ小便ノ
スルアリ破水カ小便カハ其婦人ニ同ハ自覺ルニ破水ノ下正
水ノ浮スルヤウナル者アリツレハ其婦驚テハツト思フモ
ノ氣ノラケツクヤウニ云キカスヘシ胎児胞ヲ破テ出ルハ
鬼腹内ニテカヘル寸鼻頭ニテスリ破ルナリ其破ヨリ袋
脱ノ生出スル又袋子トテ袋ヲキテ生ルアリ此等ハ

臨終具候人^(息下)中所ラツニ切テ袋ヲ脱カシムルニサテ児
生ル寸胞ヲ^起ニテフニハリテ出其故ニ胞ヲ上ヘラシメ
クル者アリ又生ル寸ハツリテ児ノ^心ニカリナドスルコト
アリ或ハ児ノ肩ニ懸ル^フモアリ如此ナレハ生ル寸モツルナリ
凡見腹内ニアルハ生糸ノ寸ニシ又陽氣會シタル故甚軟弱ニ
生シ出ルト即強硬ニナリ故ニ難産ニテトカク生シタルトキ妙ナ
臨終具候ハ児ノ手足ナトラヒニキテ生シカスルニ本産ト小産トハ
産前ハ小産重ク産後ハ本産重シ其腹痛スルナトハ何レモ
同シ産前ニハ食ヲヨク進メテ食量ムヘシサテ餅ヲ食シ允
ハ胎腹実スル故其ハリアイニテヨク子カヘリヲスル者ハ産前
脈ハ浮大ナカヨシ^カシ腹ツヨク病ムトキハ脈モシマリテ見ユ
ルニ顔色ハアカキヲヨシトス産前ニ舌アサキ色ナルハ死胎ニサ
ル桂ヲ用シ又舌色如常而唇アサキ色ナルハ子生シテ母多

死ス急ニ桂薑參附ヲ用ヘシ催生トス難産ノ時ニアルフナリソ
レモ子カエリヲセヌ内ニ催生スルハ大アリ子ガエリヲセザルハ其
婦人ノ氣不充故温リ不足スハ^ハ故ニ芍桂飯類ノ温菜ヲ用
テ随分温シヨシ又死胎ナトノ時モシアリタ、温メテ婦ノ氣カツ
ヨクナレハ自産スサナケハタトヒ産スル^トテモ^危症ニ至ル^ハ難産ト
見ハトカク芍飯桂ニテ温補シ又スイブニ腰ヲ温ルカヨシ腰冷
レハイヨク逆上ノ産難ナリ其法古キ木綿切ヲ多ク集テ
熱湯ニ浸シヨクシホリテ^レヲ以テ腰腿ヨリ陰処ノ辺足ノ
先マテヲ温ムヒタモノセンク^クニ右ノ木綿切ヲ取カ^ンタ^ニ
間モナク如此スレハヨク安産スルナリサテ随分其婦ニ教テ
氣ヲセキイラツフナク心ヲユツタリトスルヤウニセシムヘシ胞衣
不下モ随分心ヲユタ^アシ^シ氣ヲセクフナケレハ下ル者^ハと云

グイラキトカク心ヲアウアエハ害アルナリヌルモノ出ルニシタカ
フテ帯ラムルナリヲリ物ノ當坐ニナリ尽スアリ又ハ少ク見ヘ
テ日久シクサリルモアリ其婦人元眩弱ニシテサテ産ノ時大ニ努
カラ用過キナトノ血ノ下ルコトモ多キ者之産後血暈ノ逆上ニ
テ直ニ死スルモアリサナキハイアホト勢甚キ血暈ニテモ死
ニ至ルト云フハナキモノ也 滯血ガクテサテラハ、フモサキ
ハ血暈至テ少キモアリ世ニ血暈ニ安神散ナト用及テ
ムアツキ出ル者ナリタナルホトキザキ酢ヲ血体ノ類ニ入レヨ
クヲヨリタル炭火ヲソノ中へ投シ其氣ヲヒタトチニテアキテ
鼻中へ入レシイアホト甚キ血暈ニテモコレヲカゲハ氣ハツ
キリトノヨロシキナリ此方ハキハメテヨシ其酢ヲ焼ズイブン
血餅ニ醒氣ノナキヤウニヨク洗テ酢ヲ底ヘニ令ホトモ入

テツレハ火ヲ投スルニ産後ハ色青カヨシサレ氏熱アリ
テ青キハア、産後ノ脉タハ浮散ナリタ、救急
ナルハアシキナリ産後ニ餅ナト用ルカヨシヨク腹中ヲ
和ス食モ少シツ、ニテモタヒク進メ食セシムヘシサレ氏
アマリ進メ過セハ食滯スルヲ多シ産後ニウツトリ
ノ氣ノハツキリトセフ多シコレ食ラムリニ進テ食
滯停スレハナリハアト快シ 治法

児枕痛
扶産肝痛
黄右二味等
方細末而用
小含ハカリ

産前後共ニ 芍 飯 桂或參此主業ニ難産胞
衣不下モ 児枕痛モタ、芍 飯 桂參ニテ温補スヘシ
胎ハ血ヲ車而出モノ其血始タ出ハ胎ノ出ル路
乾燥シ産難ニ至ル者多シ故ニ治方モアリサナケ
レ元来天地自然ノ妙而手不觸之ハナレハ致

タノミサヲ用ルハナキナリ臨産ノ家ニ兼
テ告ラキテ将産ノ時大釜ニ湯ヲタワカサシ
メ又炭ヲタクヲコシラクヘシ炭ハ酢ヲ焼クタメ湯
カノ下部ヲ温ルニ用ルタメソノ寸ニ至リテハ用ニタ
チカタクヘシ湯ヲ調ラクヘシサテ醫及主家ヨリ
陰母ニ指圖ケ間シキヲ云ヘハ限ヲ立ルモノナルホ
ト言ラマワラケテ相談スルヤウニスヘシ産後便
不通ハ不苦水腫モタクハ産後生ルハナラモハ
産後熱往來シテ居ル内後湯ニ変スル者アリ心ヲツ
クヘシ痔瘻ハ大カタ不治ナリサテ血暈ヨリ狂ノ如クニ
ナルモ當分ニツテ血ニツレテ自治ナリ元來其キサ
シアルハソヨリ狂症トナリ産後經水ノ見ヘサルヲ

一年ト云カマツ平常ナリシカシ各不同アリ乳ヲ用
子ハ早ク見ルモノ

經閉

本料ニ經水ノ日數六日トアレソレニハカキラス婦人
ハ常々血餘ル今安スルニ七日トイヘニ三日或四日ア
ル者タシ大要四十九マテアリ病婦ニ經水ナキコト
アルハ津液ハ熱ナトニテ乾ク故シカリ血塊ハ經水
ノ滞リシ産後ノ血塊ハイツトモナシニヲリルモノ
ナリ及テ療治タテラスハ他ノ症ヲ引出スモノ
ニ蕃椒ヲ常ニ用ルカヨシ温泉をヨキ

崩漏

血ノ大下リノスルコレ其本ハ寒濕カラコヅキ

黑丸子

黃連五錢 合歡四錢 沉香二錢
木香一錢 熊膽三錢 右五味糊丸

調中散

黃連 芍藥 各五錢 茯苓 莪朮 各四錢
白朮 厚朴 良姜 藿香 各三錢 乾薑
木香 各二錢 丁香 胡椒 各一錢
右十二味細末 代リヲサス

治中散

白朮十二 人參 茯苓 薯蕷 乾薑
各五錢 耳朮三錢 右六味細末

奇應丸

人參 沉香 各五錢 麝香 一錢 熊膽 三錢
金箔 五十枚 右五味糊丸

交感丹

蘇州 四十錢 茯苓 十錢 乾姜 八錢 蜈蚣
右蜜製

蜈蚣酒

蜈蚣 二錢 桂枝 山椒 各二錢 酒 三合

鯉魚湯

極上ノ出し昆布長三尺ハカリ二切一枚ニ
水三升入ヨク煮出し其汁へ九寸ホトリ鯉一
尾ヨク煎エテ汁トモニ用フ塩カケニハ昆布塩ヨキホト
入ルハナリコヲ用フル間佐ノ肉味用イヌカヨシ

硫黃湯

當飯 五升 硫黃 三升 塩 一升 酒 五合
右當飯硫黃一ツメニ煎シ其汗ヲトリ

塩酒ヲ入レヨキカケニ水ヲ入浴スルニ七日
ホトニサ藥ヲカヘル

右此本ノ初二病名目錄アリ享保元年八月録
ト有師説筆記ト有上下ニ分ツ門人浪花暢庵
加藤信成録ト有本ヲ写ス

足立榮菴

又再三傳シテ以讀之暇之日予浮浪を樂み
享保十七暮路を至るニ言閣前

主人亦林圓菴

